

# はせどうかいづか 長谷堂貝塚 平成28年度発掘調査 現地説明会資料

平成28年8月27日(土)

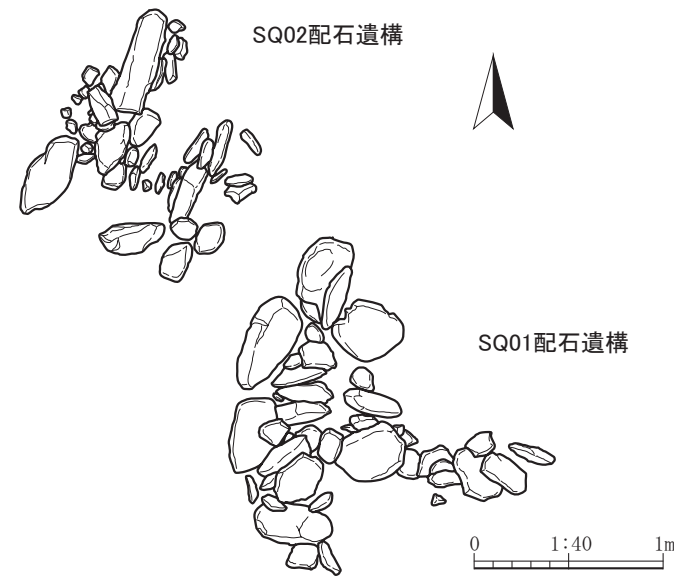
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

## 配石遺構

大きな川原石を意図的な形に並べた状態で、今のところ3単位が明らかになっています。

「SQ01」は外側を平たい石で囲み、内側に一回り小さい石を並べた状態。「SQ02」は両端に細長い石を立てて、その内側に小さい石が密集します。

自然の状態では考えにくい立ったままの大きな石があるため、人が並べたものだと判断しました。このような配石遺構は、墓の上部に作られたものであることが多く、今回見つかった配石遺構の下にも墓穴がある可能性があります。



## 遺物

数多くの土器、石器の他に、いくつか特徴的な遺物が出土しています。石棒、土偶、三角壺形土製品などは、いずれも日常的な道具ではなく、縄文人の信仰や祭祀に関わる品ではないかと考えられます。またアサリの貝殻がまとまって入っていた小型の土器が出土しました。食料として保存されていた可能性があります。



石棒出土状況

## まとめ

今回の発掘は小面積ですが、主に縄文時代中期の貝層、遺物包含層、配石遺構など、多様な遺構、遺物が見つかりました。来年度まで調査が続きますので、全体の状況を更に明らかにしていきたいと考えています。

最後に、この調査に関してご協力いただいている、大船渡市教育委員会はじめ、地元の皆様に御礼申し上げます。



土器出土状況

## 調査要項

所在地 : 大船渡市猪川町字長谷堂 183 番地ほか  
委託者 : 大船渡市  
事業名 : 市道猿石線道路改良事業  
対象面積 : 950 m<sup>2</sup>  
調査期間 : 平成28年6月9日～11月30日(予定)  
調査担当者 : 高木 晃 佐藤奈津季 佐々木正樹



1:25000 盛

## はじめに

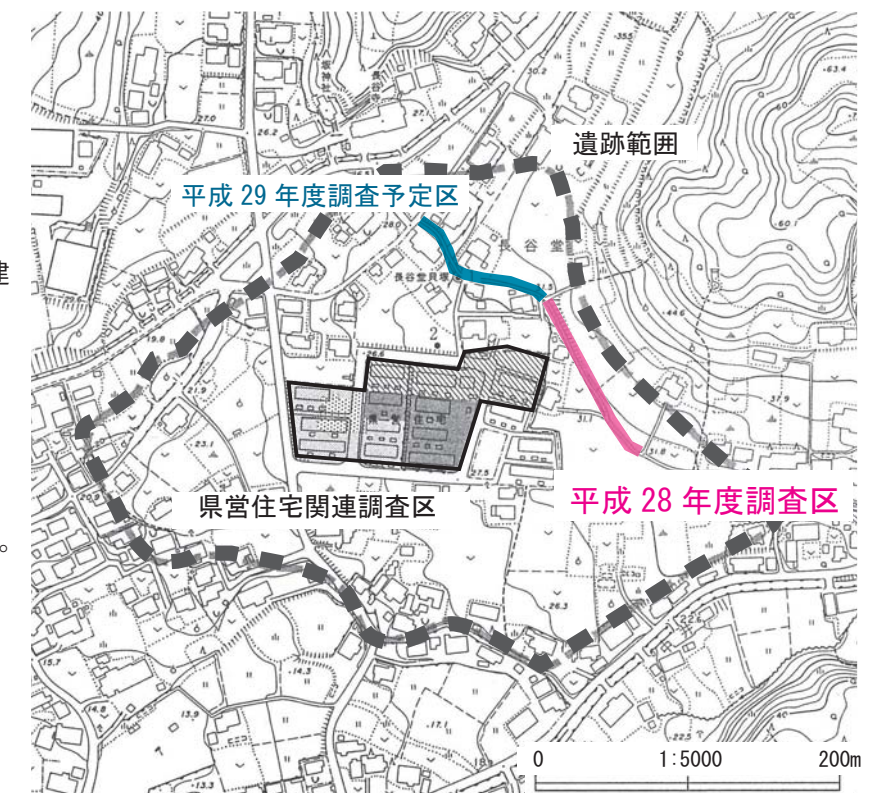
今回の長谷堂貝塚の発掘は、市道の拡幅工事に伴い、遺跡の東側を細長く縦断する形で行っています。調査はまだ途中段階ですが、現時点で見つかった縄文時代中期後半の遺物包含層、貝層、配石遺構、竪穴住居跡などについて説明します。

## 長谷堂貝塚の概要

長谷堂貝塚は300m四方の範囲に広がる大規模な遺跡で、これまで数多くの調査が行われてきました。

特に1996～2002年の県営住宅建設に関連した発掘では、遺跡の中心部分の様子が明らかになり、縄文時代中期から晩期、弥生時代、平安時代の集落として地点を変えながら利用されてきたことがわかっています。

今回の調査区は、主に縄文時代中期の集落が広がる地区の一部です。



長谷堂貝塚全体図





いしがこいろ  
石囲炉

石で囲んだ形の炉で、内部が赤く焼けているのが観察されます。片側に土器が埋められている特徴は、縄文時代中期末に多い形です。通常は竪穴住居の炉として作られるものですが、ここでは床や壁の痕跡がはっきりしません。遺物包含層が堆積する途中で住居が作られたため、石囲炉だけ検出できたものと考えています。



遺物包含層

今回の調査区では、土器や石器が多量に出土する土層が全体に広がっていました。厚さは平均で50～100cmほど。約3mの区画ごとに、上から土層の特徴を元にして、3層にわけて掘り下げられています。貝殻や動物の骨が含まれ、もともとは縄文人が捨てたゴミが積み重なったものだと考えられます。包含層上部は縄文時代後期初頭（約4千年前）、下部は中期中葉（約4千5百年前）と数百年の時間幅があり、長年にわたって使われたゴミ捨て場とも言うことができます。6月の調査開始以来、2ヶ月の間に包含層から出土した遺物は、土器がコンテナ約60箱以上、石器が約30箱になり、今後も増える見込みです。



貝層

遺物包含層の一部で、特に貝殻が集中する層を貝層と呼びます。現在のところ、直径数十cm～数mほどの貝層が5～6カ所ほど見つかりました。貝殻はアサリが最も多く、カキがこれに次ぎます。貝殻の中に混じって動物の骨や歯も出土しました。イノシシとシカが多く、他に小動物や鳥の骨、魚骨も含まれます。貝殻とともに縄文人の食べかすだと考えられ、当時の食料事情を明らかにするために、詳しく分析する予定です。



竪穴住居跡

現時点で1棟が見つかりました。縄文時代中期中葉の住居跡です。大きさ8mほどで、中央に石囲炉が備えられています。床面には、直径50cmくらいの柱を立てた穴が複数見られます。他にも複数の住居跡がこれから検出される可能性があります。